



発行 ドンキーワールド  
〒854-001 長崎県諫早市八天町 6-17  
電話・ファックス (0957)22-9569

Eメール manbow1388@yahoo.co.jp  
ドンキーワールドは手作りのパンなどを販売  
している身体障害者の小規模通所作業所です。

ホームページ  
http://www.geocities/manbow7jp/donky2003/

## 特集

# ドンキーの仲間とワンコたち

## 「犬」は、あなたにとってどんな存在ですか？

なんともかわいい犬、やすらぎ<sup>やつ</sup>をもたらす犬、元気をくれる犬、相棒（パートナー）としての犬、威厳があり、こわくて近づき難い犬、人間よりも利口そうな盲導犬、音を知らせてくれる聴導犬、身体障害者の手足となって生活を支えてくれる介助犬、いつもキャンキャン鳴いている犬、そして、犬だけはどうしても嫌いだという人もいることでしょう。

でも、今回の「ドンキーの仲間たちとワンコたち」を読んだなら、あなたも犬が生活のもっと近くにいるように感じるようになるかもしれません。「たかが犬」という前に、「犬からもらった元気」や、「心の支えとやすらぎ」など書いてくれたこれらの文章をぜひ読んでみてください。

最近、高齢者が犬といい関係で生活しているのをよくみるようになりました。アニマル・セラピーとは言わないまでも、家に帰ると犬がとびはねながら迎えてくれる喜びは、お金では代えられないものでしょうね。家族以上の心の支えになってくれる犬や、人間の会話を広げ、社会の秩序すらを回復する助けとなっている犬もいることに気づくでしょう。これが、「犬のパワー」といっていいのかどうか分かりませんが、このパワーは老若男女、身体や心に障害があるなしにかかわらず、みんな同じように受ける恵みなのですね。

秋風になびいているコスモスと仔犬たちのカットとともに、犬のいる生活の幸せが、この作業所通信を通じて皆さまに伝わりますように、そして、無責任な人間の犠牲になって、保健所に連れて行かれるワンコたちがいなくなることを願いながら、この特集をおくります。 編集部

### ..... — 目 次 — .....

◇特集:ドンキーの仲間とワンコたち 編集部 1	◇身体障害者補助犬について 鈴木晶子 6
◇マルが家に着て16年 川口文博 2	◇作業所の問題を直接きいて 辻 直子 6
◇ぼくはロンロンがだいすきです 畑山 裕2	◇国際巨匠絵画展アラン・ポノールさんの サインをもらって 川口博文 6
◇心の介助犬:ロンロンとのふたりぐらし 大賀 誠3	◇研修報告「まいど1号 型は小さく 夢は大きくなるならえ」 碓 勝好 7
◇いどばた出会いのPet'ルー 辻直子 5	
◇我が家のラッキー “ 5	◇ことしもがんばった実習生 8
	◇編集後記 8



雪の降る日にマルは来ました

# マルが家に来て16年

川口 博文

私の家には柴犬がいて、飼ってからもう16年目になります。仔犬のときは、茶色い毛がフサフサとして、しっぽがくるっとして耳がピンと立って、とっても可愛い犬でした。「名前は何と名づけようか?・・・」といろいろと考えて、「マル」と名づけました。

マルが私の家に来たのが、2月の雪が降っている時でした。雪がやんで散歩に行き、うっかりマルを引っ張っていたひもを放してしまい、あちらこちら探しまわったがみつからず、マルが迷子になってしまいました。一週間ほどたって、近所の人が「マルおったよ。」と教えにきてくださいました。家から歩いて10分ほどかかる、峰という部落の土井さんのお宅に保護されていました。赤い首輪に名前が書いてあってさすが付いていたので、「どこの犬だろうか?」と近所の人に聞いていらしたそうです。マルを土井さん宅へ迎えに行ったら、土井さん宅の子どもさんが、仔犬を「飼いたい!」と言っています。



した。家族から、「よその家の犬だから飼えない。」と言われて、あきらめたそうです。あのときは、ほんとうにお世話になりありがとうございました。

それから、こういったこともありました。マルに餌をあげようと思って、餌入れをとろうとしたら、左腕を「カブリ」と噛まれ、血がダラ〜とでて、今でも左腕に噛まれた傷あとがあります。それから、マルはビスケットとか投げてやると口で、カブリと、とって食べていました。現在は老犬で目が少し悪くなりましたが、夕方、散歩用のひもをもってマルい近づいていくと、喜んでしっぽをふってわたしのところに近づいてきます。夜散歩に行くと田んぼや溝に落ちそうになるときがあるので、田んぼや溝があるところは用心させながら散歩させています。

マルには、これから先、5年10年と長生きしてもらいたいと思っています。



## ぼくはロンロンがだいすきです

野不

晶子

大賀さんの犬の名前は、ロンロンと言いました。僕の横にロンロンが来ました。僕は、ロンロンが大好きです。前から、犬がこわくて、今は犬が大好きです。僕の犬の名前は、てつと言いました。僕は犬がきらいでした。でもいまは、大賀さんのロンロンは大好きです。

畑山 裕





# 心の介助犬

## ロンロンとのふたりくらし



ロンロンが私の家族の一員となって早一年になります。ロンロンはホワイトコリーの雑種、メス、性格は優しく甘えん坊です。おばさんや子供たちが大好きで、散歩に連れて行くと通りすがりの見知らぬおばさんや子供たちに大きくしっぽを振って愛想を振りまきます。私の所にローテーションで来てくれるヘルパーさん達も大好きで、すり寄っていき可愛がってもらいます。

そんな甘えん坊のロンロンですが、私の言うことはバシッと聞きます。作業所のメンバーから「ロンロンは大賀の言葉がよく分かるな」と冷やかされるぐらい私の命令には忠実です。(私の言葉は普通の人間にはかなり聞き取りにくいようですが…)

ロンロンが電動車いすの横について歩く姿は、実に見事です。自慢じゃありませんが、作業所に行く途中で、電動車いすからリードがはずれても、ロンロンは私の横をしっかりとついてきます。赤信号で電動車いすが止まればロンロンも止まり、青信号になれば進みます。道行く人から「盲導犬ですか」とよく聞かれます。

ロンロンは部屋の中で私と一緒に生活しています。私がテレビを見ていたら、横に座りテレビを見るし、私がパソコンをしている間は静かにパソコンを置いている机の下で寝ています。

そんな賢いロンロンですが、時々隣の庭に入り走りまわり植えてある花を食べてしまったりします。また、私の前の家の仔犬のチョコとじゃれあい、少しチョコを傷つけてしまったのです。お詫びにチョコの大好きなササミジャーキーを持っていったところ、飼い主のご夫婦は大変喜んで、その後は私とロンロンを見かけたら、必ず声をかけてくださいます。

ロンロンが近所でイタズラしたときは、すぐ、私はロンロンを連れて謝りに行きます。そうすることによって近所の人たちとも久しくなり、今ではロンロンともども本当によくしてもらっています。

障害のある私にとって、隣近所とのつき合いは大切なことです。その地域との架け橋をロンロンがしてくれているような気がします。

ロンロンが私の家に来たおかげで、私の体も心も健康になりました。病気なんかしていたらロンロンの散歩がおろそかになってしまうからです。犬は散歩が一番だと、何かの本に書いてありました。太陽や自然のエネルギーを体いっぱい浴びることは、私の体にとっても大変良いことで、休みの日なんかはロンロンを連れて目代の山まで行きます。たまに行きたくないとき自己主張をし、困らすときがありますが、私が大きな声で「ロン、行くぞー」と言うと、茶色いビー玉のような瞳で見つめます。そんなロンロンが大好きです。

ロンロンが来る前までは「介助犬がいたら…。」と思っていましたが、よく考えてみると、私は手が不自由なので介助犬が落としたものを拾ってきても、受け取ることはできません。

それよりも一緒に散歩に行ったり、心をいやしてくれるパートナーに育てていきたいです。

ロンロンは、私の心の介助犬です。

### 10月7日は ロンロン1歳のお誕生日

これからも、よろしくね!!  
大賀 誠



# いどばた出合いのPetリレー

ここでは、私が出会った可愛いペットたちを紹介しようと思います。今回は、その1弾で～す。  
写真(→)は、フレンチブルドッグのさぶろう君



さぶろう(♂2カ月)

水曜の朝、送迎リフト車のエンジン音がすると嬉しさのあまりに吠え続ける、わんこたちがいます。名前はポッキー(♀)とブッチ(♂)の親子。そんな、わんこたちが住むの家の前の路地に、リフトを降してもらい私はいつも乗車しています。毎回送迎車が近づくと、ブッチは必ず鳴きだし、自分を一生懸命にアピールしています。私が車に乗り込む微々たる間に、リードをはずし、とても生きいきと、格好よく駆回ります。

猟犬ビーグルの血を引く、ブッチの力強い走る姿は、見ている私まで気分爽快になります。この日は、ポッキー、ブッチと愛犬ラッキー(♀)の他に新しく、さぶろう(♂)の顔がありました。愛くるしい表情を携帯のカメラで、カシャカシャと思わず撮ってしまいました。写真は、その時に写したものです。

ラッキー(♀)は2000年8月21日島原市、生まれ。ラッキーが我が家に来たのは、2002年1月27日です。



## 我が家のラッキー

### 「ラッキー」ことはじめ事始

犬が飼いたいと思っていた私は、ココア色のトイ・プードルが欲しかったのです。その頃、自宅に診療に来てくださっていた整体士の先生に、その話をしていたところ、ココア色のトイ・プードルは無理だけど、ヨークシャー・テリアという犬種だったら、知人の獣医さんのところに、いるみたいとの話を聞き、先生にお願いをして、ヨークシャー・テリアを飼うことになりました。

そして、迎えた当日の夕方、私が帰宅すると、部屋の真中でちょこんと座っているラッキーが居ました。

生後1年ということで、飼い主さんもいて、大切に育てられていたようです。私は、ラッキーを迎える日まで、いろんな可愛い名前を思い浮かべていたのですが、既にラッキーという一見、男の子らしい名前も付いていました。家に来た当初は、今より一回り以上小さく、おとなしい子でした。今では、家の中心的存在です。ラッキーは、犬社会に、あまり馴染めていないようで、他の犬にすぐ吠えてしまう臆病者です。留守番が少し苦手な、どこへ行くにも車に乗ってついてきます。ラッキーは、おもちゃなどには関心がなく、唯一興味示すもの…それは人間です。

ラッキーと私たちを見かけたら、声をかけてくださいね。辻 直子





# 身体障害者補助犬について

鈴木晶子

アメリカでは既に20年の歴史があり、1000頭以上の犬たちが活躍していますが、日本ではようやく2002年10月1日に身体障害者補助犬法の法律が施行され、まだ人々には馴染みのうすい言葉だと思います。ちなみに補助犬とは、下記に上げられている介助犬、聴導犬、盲導犬すべてを言います。今回、簡単ですが、それぞれの協会のホームページと活動内容を紹介したいと思います。皆さんもこの機会にさまざまな補助犬について関心を持ってみてくださいね。



## 社会福祉法人 全国介助犬協会ホームページ

<http://www.s-dog.jp/tuite/tuite.html>

「介助犬について」、「介助犬のトレーニングの方法」、「イベントの案内」、「介助犬キャラクターグッズ販売」などが幅広く掲載されています。特に「介助犬を希望される方へ」の項目と「介助犬トレーナーになりたい方へ」という項目は介助犬をもった後の生活の心構えや、トレーナーとはどのような仕事をするのか、また介助犬と関わる上での厳しい現状なども詳しく載せています。掲載されている介助犬たちの写真がとてかわいいです。



## 社会福祉法人 日本聴導犬協会ホームページ

<http://www.hearingdog.or.jp/>

内容は介助犬のホームページとほぼ同じですが、漫画（聴導犬ナナと花子さんの物語）などを使って、大人から子供まで、聴導犬のことをわかりやすく伝えていて、とても見やすいと思います。補助犬の中でまだ人々に認知度の低い聴導犬ですが、このホームページで理解を深めてください。聴導犬みかんちゃんがかわいらしいですよ。

## 財団法人福岡盲導犬協会ホームページ

<http://www.fgda.or.jp/>

介助犬や聴導犬同様の内容です。募金のお願いのページや、盲導犬訓練校見学のページもあります。今、現在、補助犬について調べる中で、唯一の九州の協会だったので、載せてみました。



## 長崎小規模連絡協議会開催の研修会に参加して

## 作業所の問題を直接きいて・・・よかった

私は、8月31日に諫早社会福祉会館で開催された研修会の名簿をチェックする手伝いをしました。チェックしながら、小規模通所作業所の一部とはいえ、長崎県にもこんなにも施設（作業所）があったのかぁ～と改めて思いました。

研修会では、小規模作業所・通所授産施設の各施設が抱えている問題が話されました。作業を行なうスペースや仕事の提供方法、資金面など、いろいろありました。そういう情報も人伝えに聞くことはあっても、自分で直接、耳にする機会が少ないので今回、研修会に出せていただいて良かったなぁと感じたことのひとつです。

わたしは、はじめ健常者が福祉に興味を持って福祉を学ぶのと同じ感覚で、福祉には無頓着でした。法律や制度については、学校のテキストをチョロチョロっと流し読みくらいの程度で、関心は持てませんでした。と言うのは、幼い頃から、一般の子供と比較すると、競争心に欠けていたと思うのです。

学校という組織の中にあっても、マイペースに事が流れていく、そんな環境に慣れすぎていて、どちらかと言うと、社会的に甘やかされた日々を過ごしたかもしれません。（それが当然という意識のまま大人になっていく人も少なくありませんが・・・）

私は20歳を境に、今まで親に任せていたこと、公的書類などを自らで行なうようになり、任されるということが嬉しくもありました。それから、仕事をし、ドンキーに通うようになり、辞典（社会福祉六法）を片手に見ながら、パソコンを触っていると、自分に関わる大切な事として、考えることも多くなりました。そんな私にとっても、今回の研修会で講話や分科会の場に居られたことは本当に良かったです。



辻直子さんは、研修会当日、受付や携帯カメラでの記録に、車椅子で活躍してくれました。  
↑ 研修会会場を携帯のカメラで撮影したものです。

## 「国際巨匠絵画展」



## アラン・ポノールさんのサインをもらいました

9月3日(金)曜日、ドンキーワールドのメンバーみんなで、国見町の文化会館で開催されていた「現代国際巨匠絵画展」を鑑賞しにいきました。大勢の人たちが鑑賞しておられて、世界トップレベルの作品が約百二十点あまりズラリと展示、販売してありました。100万、200万と高価な絵ばかりで、私が知っているピカソやシャガールの絵もありました。「これほしいなぁ」と思った絵が何点かありました。展示会場には、アラン・ポノールさんがお見えにな

りました。フランス人で年齢が63歳の人で、サイン会を実施されていました。アラン・ポノールさんの絵を見ていると、何だか安らいだ気持ちになってきました。受付の横で、「ふれあい工房野の花」さんが、湯のみとかお茶など販売されていました。私はお茶を買って帰りました。

また来年「現代国際巨匠絵画展」が開催されたらドンキーワールドのメンバーみんなで行きたいと思い、会場を後にしました。 川口博文



## 第48回中小企業団体九州大会に参加して

ドンキーワールドは小規模作業所であっても、アーケードの中では小企業・・・

## 「まいど1号 型は小さく 夢は大きく」にならえ!

「活かそう連携 改革への挑戦」をテーマに9月10日(金)長崎のブリックホールで、第48回中小企業団体九州大会が開催された。この大会は九州各県の持ち回りで開催されていて、今回は長崎での開催である。私たちの所属する竹の下通りアーケード商店街会長の中原さんからお誘いがあったので、ドンキーからは川口君とふたりで参加させていただいた。

この大会では、中小企業が直面する問題の解決と地域経済の発展のために講演をきいたり、討議したりしていた。来賓として、経済産業省副大臣の泉氏はじめ長崎県選出の国会議員、県知事、長崎市長、それに、各団体の関係者など約3千人以上になっていたように思った。

大会では、日本経済が本格的な景気回復を実現するには、底辺で経済を支えている中小企業の振興発展なしにはありえないことが強調されていた。しかし、現実には中小企業関係の補助金が縮小・廃止されようとしているし、小泉内閣の構造改革なるものが弱肉強食に思える方は少なくないはずである。わたしたちの作業所も無認可の一番弱い立場なので、ここ2年間続けて国庫補助金が1割ずつカットされてきている。補助金とはちがうが、UFJなどには莫大な資金が注入されているのを聞くと納得がいかない。

さらに、名ばかりの公共事業ではなく、真の公共事業を推進させるべきだと思う。たとえば!! 長崎新幹線についていえば、現実みをおびてきた今だが、はたして本当に必要なものなのか疑問に思うことが多い。何十年も前は、夢の超特急であった新幹線だが、今は、在来線の特急「かもめ」でも福岡まで2時間かからない時代である。料金も往復5千円で

OKなのだ。しかし、新幹線となると時間は大差なく、料金は高くなるだろうから、税金の無駄遣いに思えてしかたない。在来線は廃止か第三セクターになり、赤字は地元が負担では、諫早に住むものとして納得できない。指名関連業者だけが潤う一方で、つけが県民全体に降りかかる。少子高齢化の進む中、県民の負担だけが増えていくのが実情ではおかしいと思う。

この大会では、<sup>しま</sup>篤信彦氏の講演があったが、その中で東大阪の「まいど1号」打ち上げ計画の話しがでた。多くの下請け企業、大学の教授・院生等の協力で、着実に進んでいるら

しい。もちろん資金面で銀行等の協力なしでは成功はないが、この面もクリアされているという。国が打ち上げているロケットに比べれば、なんとも小型のロケットではあるが、型はチイサク夢はデッカクといったところだろう。

今大会のメインテーマであった「活かそう連体 改革への挑戦」が、このロケット打ち上げ計画にマッチしていると思った。ブリックホールに集っている大勢の中小企業のみなさんを見て、「れんたい」こそが、景気回復の大きな力になるのではないかと思いついてから帰路についた。

K-Ikari

30-September-04



## 11/7 フリーマーケットどんどん市

## バザー用品をゆずってください

\*ご家庭の押入れなどの中で眠っている贈答品(食器やタオルなど)、連絡していただければ、受け取りに伺います。(収益は送迎リフト車の維持費になります)

電話 0957-22-9569

ドンキーワールド 大賀

# 諫早養護学校から 実習生2名



6/28~7/2

野本裕行(高2)

# ことしもがんばった実習生!!!

7/5~7/9

下見広太(高2)

## 6月28日(月)実習記録より

きょう、朝からドンキーワールドに来て、社会体験学習をしています。朝は向かい側のきさ店でもオリエンテーションをしました。ぼくはドンキーで、ロンと言う犬に会いました。初めはこわかったけど、ロンちゃんと友達になりました。

お昼の食事はサティからトンカツ弁当を買って来ました。とてもおいしかったです。午後からは、碓さんや川口さんと「買ってちょうだい」をくばりました。商店街がありました。薬局、洋服屋、花屋、お茶屋、喫茶店、歯医者、仏具店、化粧品店、魚屋、靴屋、くだもの屋、時計店、銀行などありました。今日はきつかったけど、明日は、頑張ります。



## ドンキーへのお礼の手紙より

ドンキーワールドのみなさんお元気ですか。実習の時は、お世話になりました。初めはパンの名前を覚えることでした。はじめはパンの名前を覚えきれなかったけど、火曜日ぐらいから覚えきれました。ぼくは、初めてレジを使いました。初めるときは、教えてもらいながら使ってみました。ぼくは、こうやって使うんだなって思いました。レジの仕事は、初めはどうやって使うのだろうと思っていましたが、パンを買う時は、先に値段をうってパンのボタンを押します。とてもいい勉強になりました。ありがとうございました。みなさんお元気で、お体に気をつけてお過ごし下さい。



レジでおつりを計算している下見くん

本当にお世話になりました。 7月22日

## 編集後記

昨年今頃は、生まれたばかりの5匹の仔犬と犬に振り回されていました。1年たった今、5匹の犬と母犬ノンノは、それぞれの飼い主のもで元気にくらしています。その内の1匹がロンロンで大賀ロンロンとして毎日、電動車椅子につながれて作業所に通ってきています。

毎日テレビで繰り返される戦争やテロのショッキングな映像と、平和な日本で犬たちを散歩させている穏やかな風景。同じ人間なのに・・・と心が痛みます。

今回かわいいカットは、福祉人材雇用対策で6月からドンキーで働いている井原麻衣さんが描いたものです。本人によく似てやさしい絵ですね。

作業所通信「買って頂戴」は、ドンキーワールドの実態を通じて、福祉のことに関心をもっていたくため、また、いつもお世話になっている方々への感謝をこめて、年4回無料で配布しています。この印刷のためのご寄付は喜んでお受けしております。



## 実習期間を終えてのひとこと

\*ヤングメンの実習生とともに過ごす2週間はドンキーのメンバーにとっても、リフレッシュするだいいな期間となります。担当にあたるメンバーは教えることの難しさとともに、自分たちの仕事を見直すよい機会なのです。 庄子